



「誠実」と「努力」で、
多摩地域の発展に貢献する。

S&D
SEIITSU & DORYOKU

CSR REPORT Vol.1

S&D多摩グループ CSRレポート

INDEX

TOP MESSAGE	02
S&D GROUP VISION	04
GROUP COMPANY	04
CSR ACTION POLICY	05

CSR活動紹介

THEME 01 自動車販売店舗での取り組み	06
THEME 02 新たなモビリティへの取り組み	08
THEME 03 人財力の最大化への取り組み	09
THEME 04 文化活動・地域イベントへの支援	10
THEME 05 スポーツイベント・団体への支援	12
THEME 06 ネーミングライツ協定	14
THEME 07 カーボンニュートラルに向けた取り組み	15
THEME 08 自治体との連携取り組み	16
THEME 09 災害への支援	18
THEME 10 医療への支援	19

地域から多角的に社会へ貢献し、 S&Dブランドを信頼と信用、安全の証に。

「多摩地域貢献コンシャスカンパニー」を 目指し、地域社会の活性化に 寄与する取り組みを

S&D多摩グループの経営理念は、「誠実努力」です。創業者田村利一が大事にしてきた、地域を愛する愛郷の精神を受け継ぎながら、「誠実」と「努力」で多摩地域の発展に貢献すること。そして、地域に愛され、皆さま一人ひとりと幸せを共有できる経営を目指す「多摩地域貢献コンシャスカンパニー」となることを目指して、Smile & Delight(笑顔と期待を超える喜び)、Sustainable development(持続的成長)、Social development(社会の発展に貢献)の3つをステークホルダーの皆さまへのメッセージとしています。

それに加え、地域社会に寄り添う「密着」、地域社会と協力し合う「密接」、地域社会に集中する「密集」をキーワードに、様々な地域社会の活性化に寄与する活動に取り組んでいます。

S&D多摩グループの根幹となる 「多摩スピリット」

我々S&D多摩グループの根幹に、「人間尊重」「独立自尊」「自然性」という価値観があります。そのうちのひとつ、「独立自尊」は多摩地域特有の多摩スピリットに起因しています。多摩地域は、新選組副長の土方歳三や六番隊組長・井上源三郎の出身地であり、新選組の結成前に局長・近藤勇や一番隊組長・沖田総司らが集って共に過ごしていた場所。新選組の「何くそ魂」のようなスピリットを宿す地域です。新選組が結成する前、農地を耕しながら、武士としても活躍していた半士半農の彼らの心が、この地に根付いています。

「独立自尊」の精神は、企業やそれぞれの従業員が社会に対して責任を持ち、地域社会と調和・協調していくことを指します。高齢化や人口減少など「課題先進都市」ともいえる多摩地域では、企業と地域と行政が一丸となって課題解決に取り組んでいく必要があります。

事業を循環させる、 「基礎的CSR」と「基本的CSR」の取り組み

S&D多摩グループの事業を通してお客様に価値を提供する「顧客価値創造カンパニー」であること、社会に役立つ人財を輩出し持続的に成長する「ヒューマンウェアカンパニー」であること、そして地域の発展に貢献する「超ローカルカンパニー」であること。この3つが私たちのブランド戦略です。これらを循環させるためには、まず基礎的CSRと基本的CSRに取り組む必要があります。

基礎的CSRとは「コンプライアンス」です。コンプライアンスを浸透させ、健全な運営を行うことが、社会での存在の許可条件だと考えています。基本的CSRはTax payment(納税)、Employment(雇用)、Product and Service(製品とサービス)、Environment(環境)、Stakeholder(ステークホルダー)の5つに分けて活動に取り組んでいます。Tax payment(納税)は、事業や活動を続けていくうえで、納税が可能な黒字経営を行うこと。Employment(雇用)は、employeesではなく、「a employee」という価値観を大切に、従業員一人ひとりが会社と共に幸せになることを目指しています。Product and Service(製品とサービス)は、ヒューマンウェア。自治体や警察と協働した交通安全啓蒙活動や、給電車の講習・体験会などに取り組んでいます。Environment(環境)はカーボンニュートラル・カーボンオフセットの実現に向けた取り組みや、花粉の少ない森づくり運動への継続的な参画を行っています。Stakeholder(ステークホルダー)は、社員、取引先、株主、お客様など、全てのステークホルダーに向けた活動です。お客様一人ひとりに向き合うことで社会に価値のあるサービスを提供し、社員一人ひとりが幸せになるという流れが循環するよう、今後も活動を続けていきます。

社員、お客様と共に創り上げた、 グループを代表する 「付加価値的CSR」活動

S&D多摩グループは、社会貢献の一貫として、「東日本大震災 被災地子ども支援チャリティプロジェクト」を今日

まで行っています。「きずな洗車」という洗車サービスを始め、そこで得た利益を寄付にまわすという取り組みです。「きずな洗車」を通して寄付した金額は、2023年時点で約4.9億円。これは、これまでご協力いただいたお客様と、社員の努力の賜物です。当時、計画停電によって、洗車機を動かすことができず、全てが手作業となりました。被災地に対して直接的に貢献できる機会を設けることで、働き手もお客様も、当時の虚無感を取り払い、心を純化できると考えました。結果、店舗に行列ができるほどご賛同を賜り、S&D多摩グループを代表する活動に発展しました。現在も毎月寄付を行っています。

また、病気や障がいを抱える子どもに向けた取り組みとして、トヨタS&D西東京(株)の福祉車両専門店「T's Welfare(福生市武蔵野台)」の一部をNPO法人東京こどもホスピスプロジェクトに無償貸与し、「S&D多摩こどもホスピスドリームルーム」を開設いたしました。難病等の子どもたち向けの場やご家族向けの相談ルームを設置し、送迎用の福祉車両(ハイエース)の無償提供も行いました。

このような事業の延長線上に位置する「付加価値的CSR」は、仕事をする場所と生活をする場所が同一であり、地域と運命共同体である我々のようなローカルカンパニーにとってなくてはならないものだと考えています。

地域の宝である子どもの成長を支援する 知育・体育・徳育の機会創出

S&D多摩グループは、「子は国の宝・地域の宝」と捉え、知育・徳育・体育に関する活動にも積極的に取り組んでいます。これまで、スポーツイベントの開催や日本将棋連盟に協賛し知育・徳育の場を設けるなど、様々な活動を行ってきました。今後も多様な機会を提供することで、日本と多摩地域の未来を担う子どもの健やかな成長を支援していきます。

自治体や各機関と連携し、 地域創生と社会活性化の先に見据える 「究極的CSR」

多摩地域19市2町の自治体と防災協定を締結し、災害に強いまちづくりの「公助」への支援として、給電車を貸し出す体制を整えました。また、2024年1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々を支援するため、義援金の寄付と、現地にキッチンカーを送り炊き出しのボランティアにも参加

しています。東日本大震災の復興に関わった経験を社会に還元することは、企業市民としての責務だと捉えています。

また、公的機関が行っている分野を、民間企業が代わりに先行事業化することでより良いサービスや結果を生み出すことを「究極的CSR」として定め、新たなモビリティサービスの実証実験を行うなど、「付加価値的CSR」の先にある取り組みにも力を注いでいます。

S&Dマークが地域に信頼と信用、 安心を与える存在を目指して

我々の祖業である(株)交運社が関東大震災時に決心したのは、世のため、人のために事業を展開することでした。あれから今年で102年。S&D多摩グループには、地域のため、社会のためになすべき指針が脈々と受け継がれています。

地域の皆さまがS&Dマークを見たとき、信頼と信用、安心を感じてもらえるように。「誠実努力」を新たな時代に相応しいカタチで追究し続け、モビリティやヒューマンウェアなど地域社会の至るところに「S&D」が関わるグループビジョンを実現するために。これからも多摩地域、ステークホルダーの皆さまと共に歩んでいきたいと考えています。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

S&D多摩ホールディングス株式会社
代表取締役社長 田村 勝彦



S&D GROUP VISION

「誠実努力」の基本理念のもと、
3つのブランド戦略で多摩地域貢献コンシャスカンパニーを目指します。

基本理念	誠実努力		
3つのブランド戦略	顧客価値創造 カンパニー	ヒューマンウェア カンパニー	超ローカル カンパニー
	NEXT ONE (提案力とカスタマイズ力)で お客様にSmile & Delight (笑顔と期待を超える喜び)を 提供します。	S&D多摩グループの最大の強みを 人財力とするべく、各種新制度の整備や 一層のグループコミュニケーション 強化を推進します。	多摩地域の皆さまと 密着・密接・密集して 活動することで、多摩地域の 発展に貢献していきます。



グループ総勢1500名 (2024年7月現在) の人財が「トータルモビリティサポーターになること」をミッションにしています。
「多摩地域の全てのモビリティに“S&D”マークがつくこと」そして「S&D人財=ヒューマンウェアが
多摩地域に密着して貢献する」ことで、多摩地域の発展に貢献していく「超ローカルカンパニー」を目指しています。

GROUP COMPANY

- S&D多摩ホールディングス
- トヨタS&D西東京 [トヨタ・レクサスブランドのリテールビジネス]
- トヨタS&Dフリート西東京 [トヨタブランドのフリートビジネス]
- トヨタレンタリース多摩 [トヨタレンタカー&カーシェアビジネス]
- S&D Tama Malaysia [マレーシアにおけるトヨタブランドビジネス]
- S&Dインポートカーズ [輸入車ビジネス]
 - ・ティーシーエス [VW、プジョー、シトロエン]
 - ・シュテルン西多摩 [メルセデスベンツ]

[関連会社] ■ 交運社 (S&D多摩グループ・祖業会社) ■ 西多摩新聞社 ■ 多摩ケーブルネットワーク

CSR ACTION POLICY

私たちは、法およびその精神を遵守し、
オープンでフェアな企業活動を通じて信頼される企業を目指し、
以下のとおり全てのステークホルダーを重視した事業活動を行い、
地球環境、地域社会の持続可能な発展に貢献します。

お客様に対して

私たちは、「お客様起点」の考え方にに基づき、お客様が安全・安心にモビリティライフを送れるために、かつ、お客様のモビリティライフを豊かにするために、お客様に真に満足いただける優れた商品とサービスの提供に努めます。

私たちは、道路運送車両法、消費者契約法、自動車公正競争規約など関連法令およびその精神を遵守し、お客様に信頼される営業活動を推進いたします。

私たちは、個人情報保護法およびその精神を遵守し、お客様の個人情報保護の徹底に努めます。

社会に対して

私たちは、事業活動を通じ環境保全に努め、地球環境・地域社会との調和のある成長を目指します。

私たちは、社会・経済の要請に応え、法令を守り、「人間尊重」の経営を実践します。

私たちは、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。

私たちは、交通安全対策に積極的に取り組みます。

私たちは、反社会的勢力に対して、関連法規に基づいて毅然とした態度で対応し、社会秩序の維持に努めます。

取引先に対して

私たちは、取引先を尊重し、長期的な視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。

私たちは、独占禁止法、下請法をはじめとする関連法令およびその精神を遵守し、公正かつ自由な取引を行います。

私たちは、公正さを疑われるような贈呈や接待をしたり、受けたりはしません。

従業員に対して

私たちは、労働関連法令の遵守はもとより、従業員が生き生きと働けるように、相互信頼・相互責任の精神に則り、互いを思いやり、それぞれの考え方や立場を尊重します。

私たちは、従業員が誠実に仕事に取り組み、新しい価値の創造を目指すことができるよう、個々人の自己啓発・成長を支援します。

私たちは、安全で健康的な職場環境づくりに努めます。

私たちは、機密情報を厳重に取り扱うとともに、適時的確な情報開示に努めます。

自動車販売店舗での取り組み

子どもたちが安心して学び、 夢をかなえるためのチャリティプロジェクト

東日本大震災 被災地子ども支援プロジェクト「きずな洗車」

2011年
5月～

トヨタS&D西東京(株)、(株)ティーシーエスではお客様のご協力のもと洗車代金の一部を公益社団法人ハタチ基金を通じて寄付を行う「きずな洗車」を実施しています。東日本大震災の被災地の子どもたちを支援するため、2011年5月から「チャリティ洗車」として活動を開始し、現在まで継続する活動となっています。



●「きずな洗車」の歩み

- 2011年3月 東日本大震災発生
- 2011年5月 「チャリティ洗車」としてスタート
中央共同募金会を通じて、2014年3月までに118,408,500円を寄付
- 2014年4月 「きずな洗車」と名称を変更
ももかき育英会を通じて、2020年3月22日までに180,884,500円を寄付
- 2020年3月 ハタチ基金に寄付先を変更
ハタチ基金を通じて、2022年2月28日までに34,677,000円を寄付

●「きずな洗車」を通じ
13年間で寄付した金額

約4.9億円^{※1}

※1. S&Dグループでの総額

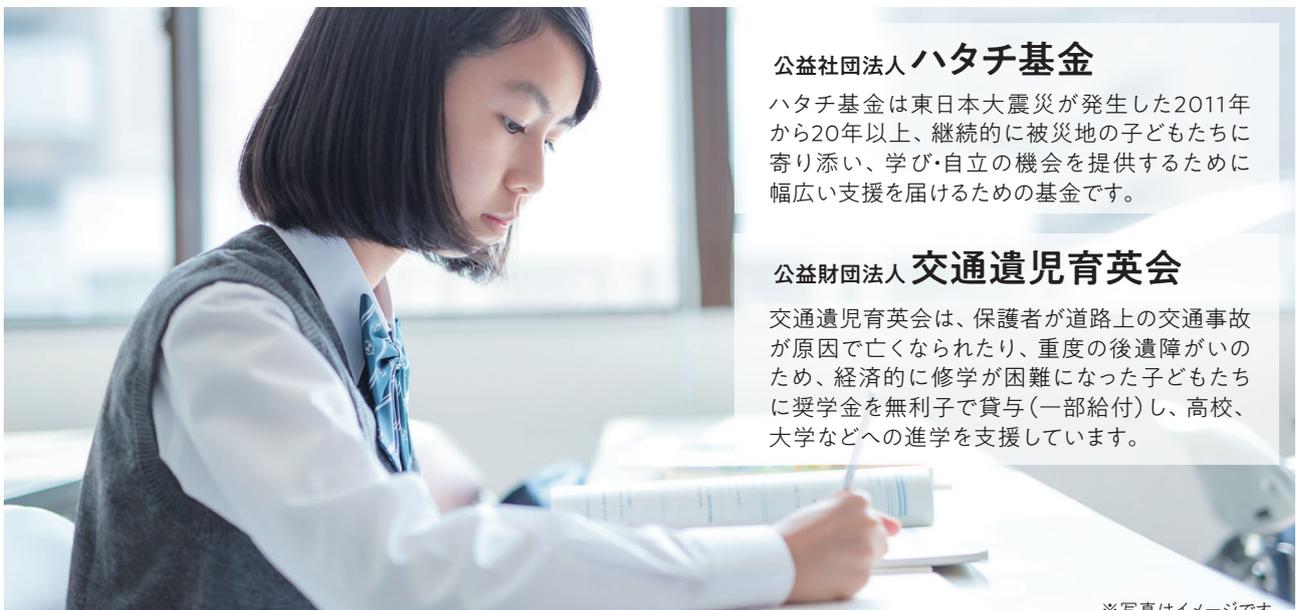
交通遺児育英支援プロジェクト「きずなオイル交換」

2016年
4月～

「きずな洗車」と並行して、2016年4月から、お客様のご協力のもとエンジンオイル交換代金の一部を公益財団法人交通遺児育英会へ寄付するチャリティプロジェクト「きずなオイル交換」を実施しています。この活動は交通遺児を支援し、子どもたちが安心して学び、夢をかなえるためのサポートを行うものです。



●「きずなオイル交換」を通じ8年間で寄付した金額 800万円



公益社団法人 ハタチ基金

ハタチ基金は東日本大震災が発生した2011年から20年以上、継続的に被災地の子どもたちに寄り添い、学び・自立の機会を提供するために幅広い支援を届けるための基金です。

公益財団法人 交通遺児育英会

交通遺児育英会は、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなられたり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに奨学金を無利子で貸与(一部給付)し、高校、大学などへの進学を支援しています。

※写真はイメージです。

多摩地域の子どもたちへの支援を強化

S&D多摩こどもホスピス ドリームルームを開設

2024年
4月～

トヨタS&D西東京(株)の福祉車両専門店「T's Welfare(福生市武蔵野台)」の一部を「S&D多摩こどもホスピス ドリームルーム」として、NPO法人東京こどもホスピスプロジェクトに無償貸与しました。

S&D多摩グループは多摩地域の子どもたちの健やかな成長を願い様々な活動を推進してきましたが、病気や障がいのある子どもたちへの取り組みを模索していた際に、本NPO法人の活動を知り今回の協業にいたしました。T's Welfareの一部を小児がんや難病等の子どもたち向けの場として、東京こどもホスピスプロジェクトの皆さまに貸し出します。また子どもたちの送迎を目的に、福祉車両(ハイエース)の無償提供も併せて行いました。

2024年4月27日に行われたオープニングセレモニーで、東京こどもホスピスプロジェクトの佐藤良絵代表からは「闘病中の子どもたちの夢を支える場所、そのご家族の交流や安らげる場所にしたい。皆さまのご支援に感謝いたします」とご挨拶の言葉をいただきました。当日は「こどもホスピスを応援する議員連盟」会長の井上信治衆議院議員と田村利光東京都議会議員もセレモニーにご臨席いただきご祝辞を頂戴したほか、セレモニー第二部ではヒップホップダンスやハワイアンダンス、シンガーソングライターの演奏なども開催され、和やかな雰囲気でのセレモニーとなりました。



地域を食でつなぐプロジェクトを実施

「YACYBER(ヤサイバー)」の直売所を設置

2023年
4月～

トヨタS&D西東京(株)は、地域の皆さまの「未来」「健康」「笑顔」を食でつなぐプロジェクトとして、農産物の直売所検索サービス「YACYBER(ヤサイバー)」の直売所を設置しました。「玉川上水店」「昭和の森店」「瑞穂店」の3店舗にて、地産地消となる多摩地域の農産物や、様々な加工品を販売しています。また、農産物の一部を子ども食堂に寄付し、子どもたちの健康と未来に向けた支援も行っています。



トヨタS&D西東京(株) 昭和の森店

公共交通空白地域の解消と市民生活の向上に向けて デマンド型交通実証実験を支援

デマンド型乗り合いタクシー「チョイソコあきる野」

2022年
3月～

S&D多摩ホールディングス(株)は東京都あきる野市、横川観光(株)と共に、あきる野市内の公共交通空白地域の解消に向けたデマンド型交通「チョイソコあきる野」の実証実験を行っています。「チョイソコあきる野」は指定停留所で乗降する予約型乗合タクシーで、ハイエースワゴンを乗車車両として平日9時から16時に運行。電話・スマートフォン・インターネットから乗車の2週間前から30分前までに予約することで利用できるサービスです。S&D多摩ホールディングス(株)が事業主体となり、あきる野市が広報の事業支援、タクシー会社の横川観光(株)が車両の運行を担います。

また「チョイソコあきる野」に加えて新たに瑞穂町でもチョイソコを始めることとなり、町民の期待が高まっています。



多摩地域の交通利便性向上に向けて 電動キックボードの実証実験を支援

BRJ(株)と連携した新たなモビリティ活用の取り組み

2022年
8月～

S&D多摩グループは、電動キックボードシェアリングサービス「Bird」を展開するBRJ(株)と連携し、電動キックボードを多摩地域の交通利便性向上のために新たなモビリティとして活用することを目的に、実証実験を行っています。

トヨタS&D西東京(株)、(株)トヨタレンタリース多摩の17店舗に電動キックボードを配置し、お客様の待ち時間にご利用いただいたり、レンタカーの利用と組み合わせで電動キックボードをご活用いただくことによって観光の促進につながるなど、多摩地域全体のさらなる街の活性化を促進しています。



人財力の最大化への取り組み

退職後のセカンドキャリア充実と 多摩地域企業への貢献を両立する新制度

Re-Generation (人財交流制度) を策定

S&D多摩グループに所属する60～64歳の再雇用社員を、多摩地域企業に出向派遣する新制度を策定しました。一定の基礎スキルや業務遂行能力を持った人財を直ちに確保でき、多摩地域企業に貢献できるこの制度は、S&D多摩グループ社員にとっても退職後のセカンドキャリアを早くから検討・実践できるものであり、地域とグループの双方にWin-Winな取り組みになります。

タクシードライバー兼「チョイソコあきる野」のドライバーとして出向第一号となった再雇用社員が活躍するなど、定年後もスキルを活かせる場を提供することで、社員のセカンドキャリアの充実と多摩地域企業の発展を支援してまいります。



普通二種免許の取得風景

人財力を活かすため、より一層の グループコミュニケーション強化を推進

S&D TAMA Malaysia の社員が来日交流

S&D TAMA Malaysia Sdn.Bhd. (以下S&D MY) 社員が2023年6月4日に来日しました。トヨタS&D西東京 瑞穂店でチームによるフロアオペレーションを見学して、その後S&D多摩ホールディングス本社オフィスを見学しました。S&D MY社員は「瑞穂店では少人数のメンバーが助け合ってチーム一体となって素晴らしい」と感想を述べ、お客様対応に関心を示していました。

夜はウェルカムパーティーを行い、S&D MY社員とグループ各社が懇親を深めました。参加者全員が同じ法被を羽織って鏡開きで乾杯を行い、言葉の垣根を越えながら、終始笑顔と歓迎ムードが溢れるパーティーとなりました。今後日本各カンパニーの社員もマレーシアに派遣して業務を学ぶプログラムも予定しており、国を超えたコミュニケーション活動を促進します。



ウェルカムパーティーの様子

「第1回 S&D多摩グループ スポーツフェスティバル」を開催

2023年10月3日、グループ全社員対象の「第1回 S&D多摩グループ スポーツフェスティバル」を開催しました。参加社員877名、ご家族も含めると900名を超える人が集まり、大勢の社員が一堂に顔を合わせました。チーム対抗の競技が行われ、仕事中は違う表情が見られることに充実の声が聞かれました。S&D多摩グループは、各カンパニーの結束を高めるため、本年度もグループ全社員によるイベントを予定しています。



地域の知育・徳育に貢献するために、 日本将棋連盟に協賛し活動を展開

「第1回 達人戦立川立飛杯」が開催

2023年11月23日～25日、立川ステージガーデンで「第1回 達人戦立川立飛杯(主催:日本将棋連盟)」が開催されました。立飛ホールディングス(株)が特別協賛、トヨタS&D西東京(株)が協賛として創設された当棋戦は、50歳以上の現役棋士が公開対局する公式棋戦です。同時にグリーンスプリングスの公開敷地にて「ぐるぐる将棋」のイベントが行われました。ぐるぐる将棋は約50人の小学生が、レジェンドと呼ばれる棋士4人を囲み将棋を挑むイベントです。子どもたちからは「テレビで観る有名な棋士と将棋が指せてうれしい」などの声が聞かれました。夜は前夜祭が行われ、MCのサバンナ・高橋茂雄さんとレジェンド棋士4名によるトークショーが行われました。レジェンドの一人、佐藤康光九段から「こんな近距離でファンに囲まれて対局を行うのは初めて。緊張の半面ワクワクする」とコメントがありました。24日と25日に決勝トーナメントの6試合が行われ、激戦の末に羽生善治九段が優勝となりました。S&D多摩グループはこれからも将棋を通して多摩地域の文化振興と交流、子どもたちへの知育を支援してまいります。

第1回 達人戦立川立飛杯 概要

開催日程／2023年11月23日・24日・25日

開催場所／立川ステージガーデン

主催／公益社団法人日本将棋連盟

特別協賛／立飛ホールディングス(株)

協賛／トヨタS&D西東京(株)

出場者／羽生善治九段、佐藤康光九段、
森内俊之九段、谷川浩司十七世名人、
丸山忠久九段、深浦康市九段、
阿部隆九段、藤井猛九段



ぐるぐる将棋に挑む小学生と羽生善治九段 谷川十七世名人と森内九段も本気で勝負

「佐藤康光九段 特別講演会」を開催

トヨタS&D西東京(株)は、2024年1月16日にフォレスト・イン昭和三館(昭島市)において「佐藤康光九段 特別講演会」を開催しました。講師の佐藤康光九段は、羽生善治将棋連盟会長や谷川浩司十七世名人と並びレジェンドと称されるプロ棋士で、2023年6月まで日本将棋連盟の会長も務められていました。講演会では現在将棋界で隆盛を極める藤井聡太八冠(2024年1月当時)の強さやその秘密、彼の日常の立ち居振る舞いなど、元連盟会長ならではのお話を伺うことができました。またプロ棋士とAIとの関係についても触れられ、AIの登場により全プロ棋士が謙虚になったという話は大変興味深いものでした。講演後には質疑応答や色紙プレゼントコーナーも設けられ、和やかな雰囲気での講演会は閉会となりました。

<講演内容>将棋の世界と思考法

1. 藤井聡太八冠の強さ・対抗策
2. 将棋とAI
3. 将棋を通じた
人と人とのコミュニケーション
4. 現役第一線で
活躍し続けられる秘訣
5. 棋士の思考法



子どもをはじめ地域住民の豊かな心を育む、イベント・文化活動・教育への支援を実施

多摩市で開催されたKAOFES2023に参加

トヨタS&D西東京(株)、トヨタS&Dフリースト西東京(株)、S&D多摩ホールディングス(株)の3社は2023年9月17日に多摩市一ノ宮公園で開催された「KAOFES」に参加しました。「KAOFES」は子どもたちが「遊び」「学び」「仕事」を体験できる地域イベントで、4年ぶりの開催となり1万人を超える多摩市民が集まりました。S&D多摩グループは「キッズエンジニア」ブースを出展し、エンジニアの実体験を通じて安全を守ることの大切さを伝え、「オイル点検ができて楽しかった」「カッコいいエンジニアウェアが着られてうれしい」「我が子のエンジニア姿をSNSに発信します!」などの声をいただきました。



キッズエンジニア体験の様子

あきる野市で「探求」の特別授業を実施

2023年2月7日と14日、創立75周年を迎える東京都立五日市高校から「多摩地域に根差した企業」ということで講師の要請をいただき、探求学習授業を行いました。探求学習は「正解を暗記する勉強法ではなく、自ら問いを立てて課題を解決するために情報を収集して、意見を出し合い、解決へと導く能力を育てていく学習」です。

2日に分けて行われた授業では、S&D多摩グループが取り組んでいる「チョイソコあきる野」を取り上げました。なぜ我々がこの活動を始めたのか、またチョイソコあきる野の始めるにあたっての課題の具体例を説明しながら、正解のない課題に取り組む意義や楽しさ、大変さなどを紹介しました。

あきる野市は高齢化と交通不便地域の課題を多く抱えています。未来を担う若者たちの熱い意見が頼もしく、「あきる野市の未来は明るい」と感じられる貴重な時間になりました。



様々な地域イベントに参加

S&D多摩グループは、多摩地域の各自治体や観光協会などが主催するお祭り・イベントへ協賛、参加、出展し、様々な活動しています。これらの活動は、地域と共に歩む企業として、多摩地域の個人・団体の皆さまと交流を深める一助となっています。



福生七夕まつり



はむら市民と産業のまつり



稲城三沢川 桜・梨の花まつり



武蔵村山 元気フェスタ

地域のスポーツ振興と社員の健康増進につながるスポーツイベントを支援

「立川シティハーフマラソン2024」に協賛

2018年
3月～

2024年3月10日に開催された「立川シティハーフマラソン2024」に協賛しました。またグループ社員20名がハーフマラソンおよび10kmマラソンに出場しました。本マラソン大会は日本学生ハーフマラソン選手権大会と併催され、種目は1マイルレース、3kmレース、親子ペアレースと幅広いランナーが参加できる大会です。箱根駅伝の出場選手から市民ランナーまで約8000人が参加して、会場は大変盛り上がりました。S&D多摩グループは2018年より当大会に協賛しており、広告協賛のほか競技の先導車(ヴォクシー)を提供しました。S&D多摩グループは、これからも地域のスポーツ振興と社員の健康増進に取り組んでまいります。



先導車(店舗試乗車)



完走した社員



1マイルレースの表彰プレゼンターを
田村社長が務めました

昭島市で「第2回 S&D TAMA カップ」が開催

2022年
12月～

2023年12月10日、昭島市昭和公園陸上競技場人工芝エリアにおいて「第2回 S&D TAMA カップ」が開催されました。本大会は昭島市フットベースボール協会が主催し、小学5年生以下が出場できるS&D多摩グループの冠大会です。関東近県から強豪の全24チームが集まり、熱い戦いが繰り広げられました。多摩地域のチームは準決勝までに全チームが敗退する中、千葉県市川市「北国分スカーレット」が優勝を飾りました。閉会式で田村社長は「フットベースボールは心も体も熱くするスポーツ。チームメートや周りの方を大切にこれからも頑張ってもらいたい」と選手たちに激励の言葉を送りました。S&D多摩グループは多摩地域の未来を担う子どもたちの知育・徳育・体育を大切に、これからもスポーツ振興を積極的に行うとともに、多摩地域の子どもたちの健やかな成長を支援いたします。



決勝戦にふさわしい白熱した戦い



優勝チームに優勝旗を授与



全チームに参加賞を贈呈

未来のプロスポーツ選手育成と、 プロスポーツ活性化に向けた支援を実施

「アメージングアカデミー」とスポンサーシップを締結

2018年
8月～

S&D多摩ホールディングス(株)およびトヨタS&D西東京(株)は、2023年7月2日に(株)アメージング・スポーツ・ラボ・ジャパンが運営する「アメージングアカデミー」とスポンサーシップ契約を締結し、新ユニフォームのお披露目式を行いました。「アメージングアカデミー」は中学生を対象とした全寮制のプロサッカー選手育成機関として活動するアカデミーです。スポンサーシップは3年間にわたり、選手のユニフォームや公式ウェブサイトにS&D多摩グループのロゴを掲出します。(株)アメージング・スポーツ・ラボ・ジャパンからは浜田社長が「このような契約披露式の機会を与えていただいたことに感謝します」、小川代表は「彼らが世界に飛び立つプロ選手になった時に、今日という素晴らしい日に感謝するでしょう」とご挨拶されました。舟橋会長からはS&Dのイニシャルの意味である「誠実&努力」を説明して、「S&D多摩グループは皆さまをこれからも引き続き応援します」と選手に言葉を送りました。式後には、選手全員が一人ひとり自己紹介と将来の夢を語りました。世界に羽ばたく夢を熱く語る少年たちの目は輝いていました。



U-13選手との記念撮影



アメージング・スポーツ・ラボ・ジャパン
浜田社長(写真右)
S&D多摩ホールディングス
舟橋会長(写真中央)
アメージングアカデミー
小川代表(写真左)

Bリーグ アルバルク東京を協賛

2017年
12月～

◎冠ゲームを主催

トヨタS&D西東京(株)は、ホーム公式戦の冠ゲームを主催しました。試合は2023年12月23日・24日にアリーナ立川立飛で行われた名古屋ダイヤモンドドルフィンズ戦。23日GAME1はアルバルク東京が83対68で勝利を飾るも、24日GAME2では59対82で惜しくも勝利を掴むことができませんでした。当日は屋内外に特設ブースを設置し、屋外ブースでは「ALVARKのRED」と「S&DのBLUE」をイメージしたボディカラーの86とスープラを展示して撮影スポットにしました。



©ALVARK TOKYO



©ALVARK TOKYO

◎「るーくきゃらばん」を実施

2023年9月に、アルバルク東京とトヨタS&D西東京presents「るーくきゃらばん」を実施しました。アルバルク東京の「ルーク」、トヨタS&D西東京の「たまぐー」というそれぞれのマスコットキャラクターと、アルバルクチアリーダーが、こぼと幼稚園、めぐみ幼稚園、みたから幼稚園、ふじようちえんの各園を訪問。ダンスを通して一緒に体を動かすことの楽しさや、チアリーダーが活動時に大切にしている「笑顔」と「ありがとうの言葉」を子どもたちに届けました。



スポーツ・文化活動・教育への支援の一環として、 各施設とのネーミングライツ協定を締結

地域の文化活動および生涯学習の振興に寄与するために、S&D昭島スタジアム、S&Dフィールド福生、S&Dスポーツアリーナ羽村、S&Dたまぐーセンターのネーミングライツ協定を締結し、企業価値や認知度の向上につなげることを目指しています。

S&D昭島スタジアム (昭島市民球場)



S&Dフィールド福生 (福生市営競技場)



S&Dスポーツアリーナ羽村 (羽村市スポーツセンター)



S&Dたまぐーセンター (青梅市文化交流センター)

市民に文化活動および地域交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、生活文化の向上と生涯学習の振興に貢献することを目的とした施設です。

S&Dフィールド福生で「福生市小学生向けスポーツイベント」を開催

2023年11月11日、ネーミングライツを締結するS&Dフィールド福生において、三井住友海上とS&D多摩ホールディングスが合同でスポーツイベントを開催しました。福生市の小学校に通う子どもたちを対象としたイベントで、三井住友海上のトライアスロン部員が指導を行い、小学生でも楽しめるプログラムが実施されました。「今日は友達同士コミュニケーションを取って元気に体を動かそう!」という田村利光都議会議員のご挨拶で開会し、子どもたちの元気一杯な声が会場に響きわたりました。最後のリレーでは大人も子どもも一体となって大きな声で声援を送り、大変な盛り上がりとなってイベントは幕を閉じました。S&D多摩グループは多摩地域の未来を担う子どもたちために、これからもスポーツ振興を支援するとともに、子どもたちの健やかな成長を支援いたします。



福生市内の小学生約50人が参加



田村都議会議員のご挨拶で和やかに開会



リズム音楽に合わせてランニング練習



子どもたちからは「もっと走りたい」の声も

「花粉の少ない森づくり運動」を通して、 森づくりへの参画を継続

青梅市で「企業の森」の植樹や整備を実施

2017年
4月～

S&D多摩グループは「企業の森」に参画し、青梅市二俣尾にて森づくり活動を推進しています。「企業の森」は、森林の所有者、企業、東京都農林水産振興財団の3者で10年間の森林管理に関する協定を締結するもので、S&D多摩グループは2017年4月に協定を結び活動を継続しています。この取り組みは花粉を多く飛散する人工林を伐採し、花粉の少ないスギ・ヒノキなどに植え替えることで、花粉症の原因となる花粉を減らしながら森の循環を促進させます。S&D多摩グループは今後もこの持続可能な森づくりを通じて、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

■ 森林の所在地：東京都青梅市二俣尾 ■ 実施面積：3.69ha ■ 実施期間：2017年から2026年まで（10年間）
■ 二酸化炭素吸収量：420.93t -CO₂（10年間累計）



植樹のようす



現在の森のようす

トータルモビリティカンパニーの責務である カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

自動車販売をはじめとしたモビリティサービスを提供する私たちにとって、温室効果ガスの排出量を削減して環境負荷を軽減することに取り組むことは責務とも言える重要なミッションです。「企業の森」などS&D多摩グループ独自の身近な活動から、トヨタグループ全体としてエコカーの普及促進に取り組むなど、カーボンニュートラルの実現に貢献する様々な取り組みを行っています。

環境に向けた取り組み

CO₂排出量の低減に向けた取り組み

1. 電気使用量の低減

- | | |
|----|---|
| 全体 | <ul style="list-style-type: none"> 各拠点毎、月毎の電気使用量を把握 定時時間内での就業に努める OA機器の省エネ運転 |
| 照明 | <ul style="list-style-type: none"> LED電球・LED電灯への切り替え 不使用照明の消灯 |

- | | |
|----|---|
| 空調 | <ul style="list-style-type: none"> フィルタや冷却フィンの定期清掃 温度設定のルール化 クールビズ、ウォームビズの運用 |
|----|---|

2. ガソリン・軽油使用量の低減

- 社用車、試乗車の燃料使用量を把握
- エコドライブ運転の促進

水使用量低減に向けた取り組み

水道使用量の低減

- 各拠点、月毎の水道使用量を把握
- 散水ホースに手元栓の取り付け

環境配慮商品・サービスの提供

- エコカー販売
 - FCEV、PHEV、HEV、BEVへの代替推進
- 省燃費商品の販売
 - 省燃費オイル、省燃費タイヤ

廃棄物低減に向けた取り組み

1. 一般廃棄物の低減

- 【紙くず、会議資料】
- プリンター出力の手動化
 - FAXの電子化
 - 両面印刷の徹底

【ペットボトル、缶、ビン】

- 分別回収とリサイクル推進の徹底

2. 産業廃棄物の低減

- 廃棄物の種類と排出量を把握
- リサイクル部品の購入と活用
- 在庫部品把握のルール化

多摩地域の自治体と防災協定を締結し、 災害に強いまちづくりを支援

これまでに19市2町との防災協定を締結

S&D多摩グループは、多摩地域の19市2町と「災害時における給電車両貸与に関する協定」を締結しました。

例年、台風などによる大規模な水災が発生し、住民生活や経済に大きな影響が生じています。そのような事態になっても多摩地域の皆さまが円滑な生活を送れるように、電力の確保が求められます。S&D多摩グループは本協定を締結し、給電車両を各店に積極的に配備することで、災害時に各自治体から貸出要請を受けた際は速やかに貸し出せる体制を構築しています。



昭島市との協定締結式(2023年6月)



日野市との協定締結式(2023年5月)

■ 防災協定の歩みと網羅範囲

2021年8月4日	福生市
2022年4月6日	国立市
2022年6月8日	立川市
2022年8月1日	国分寺市
2022年8月5日	府中市
2022年8月29日	多摩市
2022年9月16日	小平市
2022年10月25日	小金井市
2022年11月29日	羽村市
2022年12月14日	あきる野市
2023年2月1日	青梅市
2023年2月7日	武蔵村山市
2023年2月9日	東村山市
2023年2月20日	稲城市
2023年3月8日	昭島市

2023年3月22日	瑞穂町
2023年3月31日	八王子市
2023年5月26日	日野市
2023年8月1日	東大和市
2023年8月28日	日の出町
2024年3月1日	町田市



多摩地域各自治体の防災訓練に参加

2023年は関東大震災から100年の節目の年であり、コロナウイルス感染症の5類移行に伴いリアルな防災訓練が各自治体で行われるようになったことで、S&D多摩グループも協定を結ぶ各自治体の訓練に参加しました。

生活に必要なライフライン「水・電気・ガス」のうち、給電車から「電気」を供給することで災害に備えるべく、給電車の電源を利用して工業用扇風機や湯沸かしポット、市民のスマートフォンへの給電を行うデモンストレーションを実施しました。



府中市総合防災訓練

2023年度の主な活動実績

- 2023年8月 青梅市総合防災訓練
羽村市総合防災訓練
瑞穂町総合防災訓練
「防災フェスタくにたち2023」
- 2023年10月 日野市総合防災訓練
府中市総合防災訓練
小金井市総合防災訓練
昭島市総合防災訓練
- 2023年11月 立川市総合防災訓練
稲城市総合防災訓練
あきる野市総合防災訓練
- 2024年3月 「DANCHI Caravan
in 町田山崎」

国分寺市と多摩市で、給電車の講習・体験会を実施しました

国分寺市からの依頼を受けて、2024年1月18日に「給電車講習会」を実施しました。講習会には国分寺市地区防災センターの職員と、小金井警察署員の約80名が参加。プリウス（PHEV）とbZ4Xの2台を使い、主に車外から給電する「外部給電システム」と、車内から給電する「非常時給電システム」の使い方を体験いただき、地区防災センターに常備しているバルーン型投光器に給電を行って灯りを確保。1月1日の能登半島地震から間もない時期の講習で、真剣な面持ちで受講・体験された職員の皆さまからは「こんなに簡単にクルマから給電ができるとは知らなかった」などの声をいただきました。

1月30日には多摩市役所と連携して、市役所職員の皆さまを対象に給電車両の体験会を実施。地震火災が発生したと想定して、市役所東広場に職員約200名が避難。S&D多摩グループから給電車を2台提供して体験会を実施し、「今回の体験会でいざという時に対応できると思う」などの声をいただきました。今後も「公助」の支援を強化してまいります。



国分寺市での給電車講習会



国分寺市での給電体験



多摩市での給電車体験会(中央右 阿部市長)

能登半島地震災害への支援を実施

能登半島地震 義援金の寄付を実施(第1弾)

2024年1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々を支援するため、S&D多摩グループは義援金800万円を寄付いたしました。被災地の復興には長く継続した支援が必要となります。2011年の東日本大震災の時にはトヨタS&D西東京(株)は災害支援団体「西東京臨済会災害支援部 臨坊」様と協業して炊き出しを行いました。この度の能登半島地震では(株)交運社が創立100年記念事業で製作した炊き出し支援車両(キッチンカー)を臨坊様に貸与し、被災された方々に温かいお食事を提供いたしました。



母体会社の交運社も関東大震災で支援を行いました



交運社が製作したキッチンカー



キッチンカーでの炊き出し

能登半島地震 災害ボランティアに参加(第2弾)

2024年3月3日～6日に、S&D多摩グループおよび(株)交運社は能登半島地震の被災地の炊き出しボランティアに参加。(株)交運社が製作したキッチンカーを現地に送り込み「西東京臨済会災害支援部 臨坊」様に随行のもと活動しました。

能登半島の被災状況は想像よりひどく、七尾市から国道249号線を北上するにつれて倒壊家屋が増え、道路もひび割れや片側車線が崩落。奥能登のライフラインは電気は復旧していたものの、水道は多くの地域で断水していました。能登町内の多くの地域が断水していたので、飲み水はもちろん、凝固剤を使ったトイレを使用している場所もありました。

炊き出しを行った場所は能登町の武連地区の集会所、藤ノ瀬地区の集会所、宮地交流宿泊所および特別養護老人ホームの4ヶ所です。いずれも断水地域のため、炊き出し用の水は給水所からポリタンクに汲んだ水を使用しました。炊き出しは4ヶ所で合計400人分の食事を提供しました。炊き出しボランティアにとって大切なことは、ただ食事を提供するだけでなく、被災者の声に耳を傾けることです。被災者から聞こえた言葉は「きのどくなぁ」です。「気のどく」は共通語だと「大変ですね」「かわいそう」という意味ですが、石川県では「ありがとう」「気を使ってもらって申し訳ない」という感謝の言葉だそうです。寒い気候のため温かいけんちん汁は大変喜ばれ、被災者からいただいた「きのどくなぁ。元気が出てきたわ」という言葉と笑顔は印象的で、ボランティアに参加した私たちが逆に励まされました。



けんちん汁は具沢山で喜んでいただけました



炊き出しの配布に並ぶ被災者の方々



交運社社員(右側2名)とS&D社員(左側2名)

コロナ禍において都内の医療現場を支援

「守ろう東京・新型コロナ対策医療支援寄附金」を継続

2020年5月より新型コロナウイルス感染症対策の取り組みとしてトヨタS&D西東京(株)および(株)ティーシーエスは「COVID19 First-Aid Campaign」を開始いたしました。「COVID19 First-Aid Campaign」は、医療現場の最前線に立たれている医療従事者への支援のため、お客様にご成約いただいた「車両代金の一部」を東京都福祉保健局「守ろう東京・新型コロナ対策医療支援寄附金」へ寄附させていただく活動です。

多数のお客様にご賛同いただいたおかげで、2022年3月31日時点で寄附総額は108,885,326円となりました。2020年10月には小池百合子東京都知事より感謝状を、2022年1月には日本政府より紺綬褒章(褒状)を拝受いたしました。



北多摩病院に新型コロナウイルス感染者移送用車両を提供

2020年7月、S&D多摩グループは北多摩病院(東京都調布市)に新型コロナウイルス感染者移送用車両の提供(無償貸与)を行いました。提供した車両は運転席と後部座席間のセパレータで空間を隔て飛沫感染を防止し、空調設定とドアガラスの開閉により車室内の空気の流れをコントロールすることで、後部座席から運転席への空気流入を防止する構造となっています。モビリティカンパニーとして少しでも医療に従事する方々のお役に立ちたいという思いから、本車両の提供にいたしました。



公立福生病院にシエンタを寄贈

2023年11月、トヨタS&D西東京(株)は公立福生病院にシエンタを寄贈しました。公立福生病院は福生市、羽村市、瑞穂町の3自治体が運営に関わる公立病院です。S&D多摩グループは2019年9月に福生市からの要請を受けて、新型コロナウイルス感染者の移送用車両としてシエンタを福生市に貸与していました。その後、コロナが5類へ移行した際に、福生市より車両の貸与先を公立福生病院へ変更できないかとご相談をいただき、S&D多摩グループでは本車両を長く使っていただくためには貸与より寄贈の方が良いと判断し、寄贈する流れにいたしました。これからもS&D多摩グループは、多摩地域の医療にも貢献してまいります。



レポート制作／問い合わせ先

〒190-0014 東京都立川市緑町3-1 グリーンスプリングス E1-6階

S&D多摩ホールディングス株式会社 Communicationプロジェクト **TEL** 042-848-6017



S&D多摩グループ

トヨタS&D西東京株式会社

トヨタS&Dフリート西東京株式会社

株式会社トヨタレンタリース多摩

S&D Tama Malaysia Sdn.Bhd.

S&Dインポートカーズ株式会社

S&D多摩ホールディングス株式会社